

Dear Sir, 無実のゴビンダ"です。

横浜刑務所の中から、尊敬と信頼をこめて、
ナマステの挨拶を申し上げます。この14年間ずっと、
私は神様に誓って無実を訴え続けてきました。
一審無罪の私を逆転有罪にした高裁判決(確定
判決)は間違いです。あの事件の起きた1997年3月8日、
私は被害者と絶対に会っていません。私が、101号室
のトイレにコンドームを捨てたのは、2月の終わり頃
です。そのことは、コンドーム内精液が、発見時から
20日以上たった古いものであるという、押田金鑑定
により科学的にも明らかになっています。今年の7月、再審
請求から6年たって、やっと新しいDNA鑑定が行わ
れました。このDNA鑑定をするよう検察を説得
してくださった裁判所には、心から感謝しています。
その結果、被害者の体内に残っていた精液のDNA
型が室内に落ちていた陰毛のDNA型と一致しまし
た。さらに、検察が9月に開示した証拠の追加
鑑定により、遺体に付着していた唾液のDNA型も、
精液と陰毛のDNA型と一致することがわかりまし
た。これらの鑑定結果から、この人物が、3月8日に
101号室に入って被害者と性交したのは明らかです。

そして、この人物こそ被害を殺害した真犯人である
としか考えられません。

どうぞ、今までに明らかになった全ての証拠を客観
的に見直してください。そうすれば、私が犯人ではない
ことが、必ずわかっていたはずです。私は犯人
ではないのだから、ここ(刑務所)にいる理由が
ありません。どうぞ1日も早く、年とったお母さんが元
気でいるうちに、ここから釈放してネパールに帰して
ください。この14年間、私も家族もずっと苦しん
できました。早くこの苦しみを終わらせてほしい
です。

事実と証拠にもとづき正しい判断をしてくだ
さることを信じています。

無実のゴビンタ・フラサド・マイナリ。

2011年11月29日。

横浜刑務所に。